様式(細則 5-2)

平成　30 年 11 月 16 日

浜田市議会議長
　川神　裕司　様

議員名　布施　賢司　㊞

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1．期　　間　　平成 30 年 10 月 26 日（金）～平成 30 年 10 月 28 日（日）

2．視察先および研修内容

（1）場　所　福岡県田川郡赤村　赤村役場住民センター大ホール

内　容　『第２回全国未成線サミットｉｎ赤村』

～幻の鉄道が今よみがえる～

- 全国の未成線団体がネットワークを拡大し、情報や地域活性化策を共有し、全国規模での地域活性化へとつながる取組みについて。
- 第３回大会を浜田市に誘致する事で、観光資源化して観光客の誘致や交流人口の増加に繋がる先進地の取組みについて

（2）場　所　福岡県糸島市　ＪＡ糸島産直市場　伊都菜彩（いとさいさい）

内　容　昨年度日本一の売上を誇る直売所を視察

3．調査経費　　23,065 円

（経費内訳:宿泊料、往復高速代、福岡都市高速代、ＧＳ代、祝賀会）

宿泊料	13,800 円
高速代	3,965 円
ガソリン代	3,300 円
祝賀会参加費	2,000 円

4．参加者　　布施　賢司、野藤　薫

5．調査研究活動の概要

別紙のとおり

浜田市議会 受付 30.11.16

【視察研修の概要】

(1)『第２回全国未成線サミットｉｎ赤村』

○研修名：『第２回全国未成線サミットｉｎ赤村』
～幻の鉄道が今よみがえる～
○日時：平成 30 年 10 月 27 日（土）13 時～28 日（日）12 時まで
○場所：福岡県田川郡赤村大字内田 1188 番地　赤村役場住民センター
○主催：赤村・全国未成線サミットｉｎ赤村　実行委員会

【概　要】
全国にある未成線 80 ヶ所以上(工事着工したが未完成か営業されることなく廃止)の遺構が近年注目され、観光資源として地域活性化に利活用され始めています。そのような未成線を抱える自治体関係者や団体が集まり、平成 29 年３月４日国土政策フォーラムとして第１回全国未成線サミットが旧五新線がある奈良県五條市において開催され、今回第２回全国未成線サミットとして旧油須原線の赤村での開催となりました。

次回、第３回からは隔年開催との決定により、平成 32 年度には浜田市での開催される事に決定しています。その為、今回のサミットには浜田市から久保田浜田市長をはじめ今福線を活かす連絡協議会会長の田邨一男氏を含む９名、事務局の市役所担当課から３名、島根県技術士会から５名の 18 名と我々２名の総勢 20 名が参加しました。

【サミットの内容】

- 開催地代表としての赤村 道 廣幸村長の挨拶
- 来賓として福岡県知事代理、県議会議員、近隣自治体の長の挨拶
- 鉄旅タレント　木村裕子氏の基調講演（仮想、木村鉄道社長）
  ～『未成線面白活用で一発逆転を狙う方法』～
  全国には未成線を含めた廃線が多く存在するが、建設途中で廃線となった未成線には物語がある。その事が多くの鉄道ファンを引き付ける。
  また、今あるものに「変な物」をプラスする事で注目を浴びる駅として面白事例を紹介され、カモメが集まる駅、狸が集まるのでタヌキのぬいぐるみを着たタヌキ駅長、未成線ではトンネルを利用してフィットネス教室や暗闇合コンなどの話をされた。
  農作物としては、ホワイトアスパラガスやシイタケ菌床栽培、などがある。

  今回参加されている地域の皆さんはトロッコ列車やトンネル照明など様々なイベントで工夫を凝らし、全国から鉄道ファンを集めている。
  是非とも、それぞれの地域が連携し地域を盛り上げてほしいと話された。

● 7地域のサミット参加団体による事例発表とパネルディスカッション

① 今福線（浜田市）

広島と浜田を結ぶ広浜鉄道として昭和8年下府駅から石見今福駅まで着工された旧線（太平洋戦争で中断）と戦後浜田駅を起点とする今福新線（昭和55年中止）で「幻の広浜鉄道」と呼ばれておりトンネル、橋梁、橋脚等の遺構が残る。

② 岩日北線（岩国市）

山口県岩国駅と島根県日原駅を短絡しようと計画された。昭和30年錦町までは岩日線として完成したが、日原までは工事途中で中止（昭和55年）された。「とことこトレイン」という遊覧列車が走り、トンネルの中に光る石を取込みイルミネーションが人気である。

③ 高千穂線（高千穂町）

明治時代から待望された延岡～高千穂間、昭和47年に開通し名称が高千穂線になる。しかし平成17年の台風14号で大きな被害を受け廃線に、現在は高千穂あまてらす鉄道としてグランドスーパーカートが運行されている。

④ 五新線（五條市）

奈良県五條市と和歌山県新宮市を結ぶ鉄道として昭和12年着工、戦争の中断を経て戦後工事再開、昭和57年に工事中止された。しばらくは国鉄バスの運行がされたが平成26年に廃止。その遺構は全国的に注目され今後の活用が期待されている。イベントとして1㎞に及ぶ木レールで子供たちの集客を図っている。（当日は80mの展示をされた）

⑤ 佐久間線（浜松市）

天竜二股駅と中部天竜駅間35キロが鉱産物、林産物の輸送鉄道として計画された。昭和54年までに計画路線の56%が完成したが中断、昭和63年建設中止となった。用地は道路へ転用されトンネルは農作物栽培、ワイン倉庫、地震観測用地などに利用されている。

⑥ 油須原線（赤村）

油須原線は炭坑用の鉄路として創られたが、石炭産業の終焉と共に使われる事も無く役目を終えた。計画から半世紀後の平成15年、多くの関係者の努力で観光鉄道として開業、現在は赤村トロッコの会の運営でトロッコ列車が走っており年間日曜日営業で2,000人が訪れる。

⑦ 北九州銀行レトロライン（門司港）

昭和4年船積みの貨物線として開業、ＪＲ貨物を経て平成21年に北九州銀行レトロライン門司港観光列車として開業。

九州鉄道記念館駅～関門海峡めかり駅間で運行されている。

● 次回開催地（浜田市）への引き継ぎ

赤村　道 廣幸村長から浜田市　久保田章市市長へ開催地引き継ぎ式が行われ浜田市のＰＲと共に、多くの皆様へ参加して頂けるよう、おもてなしとイベントの充実を宣言された。

【所　感】

赤村をはじめ未成線サミットに参加された団体は創意工夫で地域のお宝として、いろいろな取組を年月かけて実践され情報発信もされており集客に努められている活動がよくわかった。その中でどこの団体も共通する課題として、高齢化による組織の維持に苦労されていることもわかりました。平成 32 年に浜田市において第 3 回未成線サミットが開催されますが、ハード、ソフトも他団体に比べれば緒に就いたばかりであり課題や取組は山積みです。一つ一つハードルを越え、地域や行政が一体となり新旧の広浜鉄道の遺構の魅力を多くの皆様に見て頂き事を願っています。他の地域の様にトロッコ列車の運行に代わるものとして、道の上を走る軽トラックカートを活用した運搬機などを考えるべきだと思いました。
今福線を点から線、エリアと拡大し観光資源として取組むべきだと強く思います。

赤村トロッコ列車

赤村、道 村長から久保田市長への引き継ぎ式

(2) 日本一の直売所『伊都菜彩』糸島市

○研修名：『伊都菜彩』視察
○日時：平成30年10月27日（土）10時～12時
○場所：福岡県糸島市波多江567

ＪＡ糸島が伊都菜彩開設の中でめざした５つの「場」
① 高齢化する農家組合員や女性の担い手が活躍できる「場」づくり
② 糸島地域の「食」に関わる産業者が連携し、地産地消運動の拠点としての「場」づくり（観光施設であり、地産地消活動の拠点）
③ 中間流通コストを可能な限り削減し、農業所得の向上を図る「場」
④ 共販出荷者のＢ級品を有利販売し、農業所得の向上を図る「場」
⑤ ＪＡが新たな販売チャネルを創造することで、ＪＡの共販から離れていった組合員を組合の販売事業へ再結集させる「場」

【視察内容と所感】

- 建物の配置、駐車場
  敷地面積5,945坪　店舗面積738坪　売り場面積384坪
  駐車場400台
  第一印象は、そんなに広くないと感じたが、とにかく日曜日で開店直後でしたが駐車場や店内は多くの人で賑わっていた。

- 外観や飲食店の状況
  ベージュ色の外観で大きく○に糸のマーク、その下に伊都菜彩とある。
  別棟で食事が取れるスペースがあり、メニューの数や値段も安いと感じた。
  また店外にはテントでの出店もあり賑わっていた。

- 商品の内容・配置など
  ＪＡ糸島の強みなのか、花や果物の陳列スペースが広く取ってあり、別レジで精算をしていた。鮮魚関係は「道の駅むなかた」の方が強いと感じたが、農産品が豊富で買い物客が多く、レジ１２台稼働しており、それぞれ多くの行列であった。

これまで多くの場所を視察してきたが、道の駅や直売所は経営主体が何処になるかによって、店舗形態（出品の取扱い品種や数）が大きく変わっており集客の差がでている。近くにこれまで九州一といわれた「道の駅むなかた」がありながら、その座を奪った「伊都採彩」はJAを主体としたスーパーであった。客層の多くは地域住民であり主婦層が多かったように思われる。
浜田ではお魚センター問題があるが、「お魚」にこだわらず、先進地事例のように全体をマネジメントできる人材を全国公募してでも何が必要で、何が障害になっているのか「外から見る眼の意見が必要」であると、先進地をみるたびに思いました。

伊都菜彩の外観

店内の様子